

2026年3月31日
株式会社三菱UFJ銀行

東京センチュリー株式会社と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち}半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートするポジティブ・インパクト・ファイナンスを提供しております。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスは、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

この度、当行は、東京センチュリー株式会社（以下、東京センチュリー）が自社のインパクトを自己評価するフレームワークにもとづき、東京センチュリーに対しポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約を締結いたしました。当行は、インパクト測定・マネジメント（Impact Measurement & Management: IMM）の考え方に準じ、東京センチュリーで特定されたインパクトに対し、同社が設定した KPI の目標達成に向けたエンゲージメントを実施します。

東京センチュリーのフレームワークから事業活動に関連する、重要なインパクト領域についての評価結果は次の通りです。なお、東京センチュリーのフレームワークの原則への適合性については、株式会社日本格付研究所（JCR）よりセカンド・パーティー・オピニオンが取得され、公開されております。

【本契約の概要】

<明細①>

契約締結日	2026年3月13日
資金使途	事業資金（JPY 建て）
貸出人	三菱UFJ銀行

<明細②>

契約締結日	2026年3月30日
資金使途	事業資金（GBP 建て）
貸出人	三菱UFJ銀行

【目標 (KPI)】

内容	目標とモニタリング項目 (KPI 等)
<p>マテリアリティ ■脱炭素社会への貢献</p> <p>重点取組 ■気候変動・環境への取組みを通じたクリーンエネルギー普及への貢献</p>	<p>【目標】 ・将来的には目標設定を検討予定</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・契約高等 (リース契約高、融資実行高、投資額など)</p> <p>【目標】 ・CDP (気候変動) のリーダーシップレベル (A または A-) 取得・維持</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・CDP (気候変動) スコア</p> <p>【目標】 ・2030 年度 : 50%削減 (基準年度 : 2021 年度) ・2040 年度 : カーボンニュートラルの達成</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・自社の温室効果ガス削減 (GHG 排出量 Scope1・2)</p>
<p>マテリアリティ ■技術革新に対応した新規事業創出</p> <p>重点取組 ■金融・サービスと新技術の融合による新たな事業創出・デジタルエコノミーへの貢献</p>	<p>【目標】 ・毎年 : 認定維持</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・経済産業省が認定する「DX 認定制度」の認定維持</p>
<p>マテリアリティ ■社会インフラ整備への貢献</p> <p>重点取組 ■グローバルなモビリティサービスの進化への対応や、地域・社会との連携を通じた社会インフラ構築への貢献</p>	<p>【目標】 ・将来的には目標設定を検討予定</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・契約高等 (リース契約高、融資実行高、投資額など) ※具体的には、以下の値を含む ・公共機関向けリース契約高</p>
<p>マテリアリティ ■持続可能な資源利用への対応</p> <p>重点取組 ■モノ価値に着目したサーキュラー・エコノミー拡大への貢献</p>	<p>【目標】 ・将来的には目標設定を検討予定</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・契約高等 (リース契約高、融資実行高、投資額など)</p> <p>【目標】 ・2027 年度 : 569,000 台</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・リファービッシュ事業の推進 (中古 PC 年間販売台数)</p> <p>【目標】 ・2025 年度 : 170 万台</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・ITAD によるデータ消去の推進 (ITAD 実施台数)</p>

<p>マテリアリティ ■持続可能な資源利用への対応</p> <p>重点取組 ■モノ価値に着目したサーキュラー・エコノミー拡大への貢献</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均 90.0%以上に維持（2022 年度～5 年間） <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック使用製品産業廃棄物等の再資源化率
<p>マテリアリティ ■人材力強化につながる職場環境整備</p> <p>重点取組 ■職場満足度の向上や自己成長を実感できる人材育成・ダイバーシティ・働き方改革の推進</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027 年度：8 億円以上 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保・育成に向けた投資〈単体〉の「研修費用」＋「研修時間×人件費」＋「人材採用費用」 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027 年度：40%以上維持 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新卒採用に占める女性比率〈単体〉 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027 年度：スコア/レーティングの向上 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンゲージメント指数の向上

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標（KPI）の達成状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施します。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上